

# 岩倉具視の京都皇宮保存

『岩倉公実記』国立国会図書館デジタルコレクションより抜粋

## 1 岩倉具視、京都皇宮保存に関し意見を上げる。

具視京都皇宮保存ニ関シ意見ヲ上ツル事

車駕東幸以来京都衰頹ニ傾復タ昔日ノ觀ナシ、具視此地ニ至ル毎ニ見聞シテ之ヲ痛歎ス、是歲一月皇宮保存ノ意見ヲ書シテ之ヲ上ツル、其文ニ曰ク

平安京ハ桓武天皇ノ經營スル所ニシテ既二年ヲ閱スルコト一千有余、其土地ハ山川明媚ニシテ大利名利ヲ粧點シ、其民俗ハ礼儀ヲ知り儉素ヲ尚ヒ、前皇ノ政澤猶自ヲ今日ニ遺存シ実ニ上国ノ名ニ協フ、然ニ大政維新ノ後車駕東幸百官群臣扈從シ此地ニ留ルモノ僅二十中ノ一二過キス、是ノ故ニ親王・公卿・諸侯ノ邸宅盡ク廢撤シ鞠フテ茂艸ト為リ、東幸已来未タ十年ヲ出テサルニ衣冠ノ区変シテ將ニ狐兔ノ栖トナラントス、都民ノ九門内ヲ經過スルモノ皆彷徨低回去ニ忍ヒサルノ想アリ、而テ去ル明治十三年、北巡ノ次車駕此地ニ駐リ、親ク斯ノ荒廢ノ光景ヲ觀覽シ、深ク御憤歎アリテ其保存ノ方法ヲ議シ、他年ハ夫ノ魯国皇帝即位等ノ大礼ハ蒙斯科ノ宮殿ニテ執行スルノ例ニ倣ヒ、吾朝ノ大礼モ亦此宮殿ニ於テ行フヘシトノ觀念ヲ起シ玉フ、比叡山延曆寺ハ帝室ト其盛衰興廢ヲ共ニスヘキトノ深キ御由緒アルヲ以テ大隈參議・杉宮内大輔等ニ命シ該山ノ景状ヲ觀察セシメ、永世ノ保存費下附ノ議モアリシト雖、彼是事故有テ因循遂ニ今日ニ至リ、僅カニ宮闕ノ四辺ヲ修理シ、其体面ヲ復スルニ止ル、而テ又都下ノ民業ヲ視ルニ織物・陶器其他二三ノ職業ヲ除クノ外慨子皆衰頹ノ色ヲ現シ、素ヨリ前日ノ如ク旺盛ナラス、然レトモ未タ其生産ヲ失フニ至ラサル所以ノモノハ、畢竟昔年儉素ヲ尚フノ風習大ニ其力トナルニ由ル、斯ノ如ク一千余年ヲ経タル名都ヲシテ俄ニ荒涼ノ域トナサシムルハ治體ノ變ニヨリ勢已ムヲ得サルニ出ルト雖、亦惜ム可ノ至リナラスヤ、抑神武帝鴻業ヲ大和国橿原ノ都ニ創メ玉ヒ、爾来千四百余年ノ間世々ノ天皇帝ヲ大和・河内・摂津・近江諸国ノ各処に遷サレ、奈良ノ如キハ建都ノ年数最久シキヲ歴テ宮闕坊里ノ制頗ル備

ルト雖、今日其遺趾ハ列聖ノ古都ト同ク禾黍離々ノ歎アリ、然ハ神武帝奠都以後帝京ノ遺摸ヲ觀ルヘキハ獨リ此平安京アル而已、之カ維持保存ノ道ヲ講スルハ今日ノ急務ニシテ且前皇ニ対シ孝敬ヲ盡サセラルヽノ大ナルモノトス、夫レ平安京ノ土地ノ美及風俗ノ善ナルハ海外各国ノ人モ亦稱揚歎羨シ、終ニ吾天皇陛下ノ毎年避暑ノ為メ此地ニ臨幸アランコトヲ望ムト言フニ至ル、因テ願フニ宮闕ヲ保存シ民業ノ衰微ヲ挽回スルニハ諸礼式ヲ興シ、他国ノ士民ヲシテ屢此地ニ出入セシムルノ方法ヲ設クルニ如クハ莫シ、即チ其条目ヲ揚クルコト左ノ如シ

### 三大礼執行ノ事

即位・大嘗祭・立后ノ三礼ハ国家至重ノ大典ナレハ平安京ノ宮闕ニ於テ古式ノ如ク執行セラ  
ル、モノト定ムヘシ此項根本ニシテ百事是ヨリ始ル、故ニ勅令ノ文注意ヲ要ス、則チ全国輕薄人心ヲシテ忠孝ノ道ヲ知シムル此ニアルナリ

### 桓武帝神靈祭祀ノ事

桓武帝ハ不世出ノ材ヲ以テ大御心ヲ政治ニ励マシ、興作ヲ務メ、戎旅ヲ事トシ、才雋ヲ任用シ、文武其職ニ稱ヒ、且平安京ヲ經營シ、永ク無疆ノ基ヲ建テ玉ヒ、其御業ハ中宗天智帝ト伯仲ス、然ルニ柏原山陵ハ久シク其所在ヲ詳ニセサルヲ以近日土人ノ口碑ニ拠リ諸書ヲ考証シ、伏見桃山ニ就キテ其兆域ヲ定ムト雖、尚ホ御遺骸ヲ瘞ム処ハ明ニ之ヲ知ルコトヲ得ス、是レ臣子ノ尤モ痛歎スル所トス、依テ禁苑内適當ノ場所ニ神殿ヲ作り、其大御靈ヲ奉祀シ、毎年大祭ヲ行ヒ衆庶ノ拜礼ヲ差許スヘシ

### 伊勢神宮并神武帝遥拝所ノ事

神樂岡旧八神殿現今吉田神社ニテ疫神社ト称ス、古代ノ建設ニ非スト雖大政維新前ハ神祇官代ニ用ヒ  
ラレシ旧跡ナルヲ以テ、自今伊勢神宮并神武帝遥拝所ト為シ、毎年神嘗祭・祀元節・神武天皇祭ニハ在西京ノ親王・諸官員及華族等此場ニ於テ遥拝式ヲ行ヒ、又都下士民遥拝ヲ差許ス  
可シ

### 賀茂祭旧儀再興ノ事

賀茂祭旧曆四月中酉日、其原ハ欽明天皇ノ御宇ニ起ル 同臨時祭旧曆下酉日、其原ハ宇多天皇ノ御宇ニ起ル、此両  
祭ハ旧式最鄭重ニシテ勅使ノ行粧華麗ナリシヲ以テ京都近傍諸国ヨリ士民其盛儀ヲ觀ル為メ  
陸續入京シ、当日九門内ヨリ賀茂社頭ニ至ル途上男女老幼雜踏麁集セント雖、大政維新ノ後  
ハ神社一般ノ奉幣式ニ從ヒ頗ル其儀ヲ簡ニシ、毎年一度四月十五日勅使ヲ差遣スノミ、此等ノ  
祭儀ヲ改革セラレシモ亦今日都下衰微ヲ来タセシ一原由ニ屬ス、依テ自今旧儀再興一年兩度

之ヲ行フヘシ

#### 石清水祭現今ノ男山祭旧儀再興ノ事

石清水臨時祭旧歴三月中旬日、其原ハ朱雀天皇ノ御宇ニ起リ之ヲ南祭ト称ス、同放生会旧曆八月十五日、其原ハ元正天皇ノ御宇ニ起リ、維新ノ後中秋祭ト改称シ、後又男山祭ト改ム、此兩祭モ亦旧儀莊重ナリト雖、現今ハ賀茂祭ト同様ニ神社一般ノ奉幣式ニ從ヒ毎年一度八月十五日勅使ヲ差遣スノミ、依テ自今旧儀再興一年兩度之ヲ行フヘシ

#### 白馬節会再興ノ事

白馬節会正月七日、其原ハ嵯峨天皇ノ御宇ニ起ル青馬天覽及兵部省御弓奏射礼ノ為メ御弓ヲ天皇ニ奉ルナリ等ノ式アリ、明治二年正月迄ハ元日節会・踏歌節会ト共ニ三節会ト称シ毎年之ヲ行ハレシト雖、車駕東幸已後其式廢絶ス、而テ元日節会ハ新年宴会ト改称シ、明治五年正月新式ヲ以テ之ヲ行ヒ終ニ恆典ト為ル、依テ自今此節会ヲ再興シ、平安京ノ宮闕ニ於テ旧儀之ノ如ク執行シ、昔時ノ歌垣ノ例ニ倣ヒ衆庶ノ拝觀ヲ許スヘシ

#### 大祓ノ事

毎年六月・十二月、禁内旧賢所ノ前ニ於テ大祓式ヲ行ヒ、衆庶ノ参拜ヲ差許スヘシ維新前節分ノ日賢所へ衆庶参拜ノ例ニ擬ス

#### 三大節拜賀ノ事

新年・紀元・天長ノ三大節ニ紫宸殿ニ御帳台ヲ設ケ、親王其傍ニ侍シ、在西京ノ諸官員・華族及神官・教導職等ノ拜賀ヲ受タルノ式ヲ行フヘシ

但親王西京ニ在住ナキトキハ東京ヨリ御参向アルヘシ

#### 宮闕ノ近傍ニ洋風ノ一館ヲ築造スル事

九門内ノ御苑中ニ洋風ノ一館ヲ築造シ、各種ノ器什ヲ具備シ、車駕臨幸アルトキハ群臣ニ醜宴ヲ賜ヒ、又ハ外国貴賓ノ入京アルトキハ其旅館ニ充ツヘシ平安京ハ寺院ヲ除クノ外ハ外国貴賓ノ旅館ニ充ツヘキモノナシ、而テ寺院ヲ用ユルモ俄ニ器什具備セサルヲ以テ其不体裁実ニ甚シトス、依テ今一館ヲ築造シ昔時鴻臚館及豊樂院ニ擬サントス

#### 宝库築造ノ事

九門内ノ御苑樹鬱蒼ノ地トシ、堅牢ナル石室ヲ築造シ、古今内外ノ珍器宝什ヲ儲蔵シ、毎年一度若ハ兩度、衆庶ノ從觀ヲ差許スヘシ

#### 宮殿并御苑ニ関スル事

九門内ヲ御苑ト為シ、大札ノ御儀杖整列スヘキノ地ヲ布置シ、美麗ニ之ヲ修造スヘシ

紫宸・清涼殿兩殿ノ鋪設ハ繪テ旧ニ復スヘシ

仙洞御所ノ御苑ハ旧ノ如ク修繕シ、毎月日時ヲ期シテ衆庶ノ縦觀ヲ差許スヘシ

大宮御所保存ノ方法、禁内ニ準シテ之ヲ定ムヘシ

二条城ヲ宮内省ノ所管ト為ス事

二条城ハ大坂城ニ亞キタル名城ニシテ其殿閣門廡三百年前ノ修造ニ係リ、海外各国ノ人モ結構ノ壯麗ヲ觀テ稱賛スル所ナレハ、此際宜ク禁闕ノ附屬ト定メ、宮内省ノ管轄ニ歸シ、其保存ヲ図ルヘシ

留守司ヲ置ク事

宮内省中ニ留守司ヲ置キ、職員ハ正勅任・佑奏任・令史判任・仕丁等外ト為シ、宮闕及御苑ニ關スル事務ヲ掌ラシム、在西京ノ宮内官員及京都府官員又ハ宮中勤番ノ華族之ヲ兼任ス、若シ專任官吏ヲ置クトキハ年俸ヲ適宜ニ定メ、之ヲ給与スヘシ

社寺分局ヲ置ク事

官幣社及各本山ノ寺院ハ大半五畿内ニアルヲ以テ社寺分局ヲ此ノ地ニ置キ、關西ノ社寺事務ヲ分掌セシメハ神官・僧侶ヲ始メ專任官吏ノ便益少カラシテ、都下民業ノ衰微ヲ挽回スルニハ尤其力ヲ得ルモノトス、然トモ本分局ノ間ニ於テ嚴重ニ事務取扱ノ規定ヲ設ケ、政令兩岐ニ出ラルノ憂ヲ防ク可シ

前条々ハ平安京保存ノ一点ニ止ルカ如シト雖、現今全國ノ風俗・民情日ニ益浮薄輕佻ニ趨リ、五倫ノ道將ニ地ニ墜ントス、然トモ政体一變ノ後其日尚ホ淺クシテ、民人ノ旧慣ニ浸染シ其道徳心ヲ存スルモノ尚多ク世ニ在ルヲ以今ニシテ前皇ノ古典ヲ復シ、忠孝ノ道ヲ申ヘハ新ニ之ヲ耳目ニスル者モ自ラ感悟スル所アリテ其風俗ヲ維持シ、其民情ヲ敦厚ニスルノ一助ト為リ、隨テ施政上ノ便益モ亦少カラサルヘシ、所謂王者ノ道ハ礼以テ之ヲ成スモノナレハ、斷然施行アランコトヲ望ム

明治十六年一月

具視

## 2 岩倉具視、京都に至り皇宮の保存を計画する

五月十五日、具視旨ヲ承ケ京都ニ至リ皇宮ノ保存ヲ経画ス、參議井上馨・宮内少輔香川敬三・内務大書記官榎并能監・宮内少書記官麻見義修・太政官少書記官多田好問・宮内省御用掛五辻安仲・同勘解由小路資生等之ニ隨ヒ、具綱亦之ニ從フ、二十五日具視京都ニ入り桂御御所

- 二館ス、之ニ於テ具視随從ノ諸員及京都府知事北垣国道・大書記官尾越蕃助・少書記官谷口起孝等ニ命シ、各事務ヲ分担シ之ヲ調査セシム、其綱領ニ曰ク
- 一 宮内省支庁ヲ設ケ、宮闕・禁苑・離宮及陵墓ニ関スル事務ヲ管掌シ、京都在任ノ皇族・華族及致仕ノ女官ヲ統轄スルコト
- 一 殿掌・殿部・殿丁ヲ置キ宮闕・離宮、交番・宿直、其事務取扱規則并任用内規ノ事
- 一 宮闕・離宮拝觀規則ノ事
- 一 新年朝拝以下諸式ノ事
- 一 社寺分局設置ノ事
- 一 賀茂・男山両祭旧儀式ノ事
- 一 九門内御苑中社殿實所御建物可被用ノ見込ヲ建設シ、宸筆ノ神靈代湊川神社ノ例ハ宸筆ニテ正成神靈ノ四字ナリヲ以テ桓武帝ヲ奉祀シ、平安神宮ト奉稱ス、其遷宮鎮座式及毎年限祭式勅使行粧ハ賀茂 祭旧儀ニ準スヘシ、儀仗兵整列ノ事
- 但祭日類聚国史ニ延暦十三年十月二十二日辛酉車駕遷新京トアリ、是日ヲ以祭日ト定メラルヘキ敷ニハ府下人民ノ情願ニ任セ、能楽・花火・競馬等奉納許可ノ内規ヲ設クル事
- 一 全国陵墓掌丁、宮内省ニ属スル事
- 一 宮闕御修復ノ上、御裝飾復旧ノ事
- 一 九門内御苑ノ位置ヲ定メ、通路広サ二十間或ハ十五間ヲ区画シ、喬木・灌木・花木ノ類ヲ種植シ、御溝ヲ改造シ、清水ヲ疎通シ、常夜灯ヲ建設スル等ノ事
- 但建春門ノコトハ、三大礼ノ節儀仗隊整列ノ場所ヲ区画シ、広芝ト為ス事
- 一 旧大宮御所ノ名称ヲ定ムル事紅楓殿ノ類
- 一 旧仙洞御所明キ地ニ豊樂院及宝庫ヲ築キ、周圍ニ四季ノ花壇ヲ築造スル事
- 一 九門内諸建物不用ノ分ハ取払、其余ハ移転ノ事
- 但錦流亭・拾翠亭・祐ノ井等ハ、修補保存ノ事
- 一 桂宮ハ先朝仮皇居ニ被充候場所ニ付、御内沙汰之次第モ有之、御修復之上保存ノ事
- 一 九門内巡查配置ノ事
- 一 修学院村両離宮御修復ノ事
- 一 二条城・桂宮御別荘ノ両所ヲ以テ離宮ト被定、御修復ノ事
- 一 御苑内又ハ鴨河近傍ニ洋館建築、名称選定ノ事
- 一 京都府庁移転ニ関スル事

但将来官庁其他公共建造物等成ル可ク二条通ヨリ以北ニ経営ノ目途ヲ定ムル事

- 一 宮内省支庁建築及場所ノ事
- 一 護王神社移転地選定ノ事
- 一 御苑内白雲神社・宗像神社、地所組替ノ事
- 一 新規経営并御修復ニ係ル金額予算ノ事
- 一 毎年経費予算ノ事

而シテ保存ニ関スル事項略ホ調査成ルヲ以テ六月二十八日、具視東京ニ還ル

### 3 岩倉具視、嵐山保勝会をつくり櫻楓会と称す

具視、嵐山ノ風景保護ヲ経画スル事

六月十日、具視ハ井上馨・香川敬三・北垣国道・桜井能監・五辻安伸・具綱・勘解由小路資生・麻見義修・多田好問・尾越蕃輔・谷口起孝等ヲ提携シ嵐山ニ遊フ、樓船ヲ泛テ保津川ニ浜リ杜鵑花ヲ観ル、具視船中ノ人ニ語テ曰ク、旧幕府ノ時代ニ於ケルヤ全山ノ櫻楓ハ年々推枯スル有ルヲ以テ官府ヨリ其新苗ヲ補植シテ風景ヲ保護シタリ、而ルニ明治維新以降ハ年々其推枯スルニ任カセテ之ヲ補植セス、故ヲ以テ全山ノ風景ヲ減損スルコト此ノ如ク甚シ、誠ニ惜ムヘキノ至ナラスヤ、因テ広く有志者ノ捐資ヲ乞テ、以テ新苗補植ノ方法ヲ設ケハ其風景ヲ回復スルコト旧時の如クナルヲ得ン、子等以テ如何トス、衆皆善ト称ス、即時嵐山櫻楓会ト称セル一社ヲ設ケ新苗一株ノ代償金五錢ト定メ、以テ有志者ノ捐資ヲ求ムルコトニ議決ス、是ニ於テ国道ハ其担当任ヲ属僚ニ命スヘシト言フ、具視・馨・敬三以下皆若干円ヲ義捐ス